



神戸大学附属図書館震災文庫のデジタルギャラリー

守本, 瞬

(Citation)

大学の図書館, 43(5):72-75

(Issue Date)

2024-05-25

(Resource Type)

article

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/0100489941>



震災関連資料を収集するために発足した文庫である。

「震災関連資料を網羅的にみられる場所はないか」という問い合わせをきっかけに、1995年5月に資料収集を開始、10月31日に一般公開した。その時点の資料数は1,034点であった。2023年4月現在の資料数(メタデータ数)は約58,000件^{*1}、うちデジタルデータの公開数は約13,000件である。

震災文庫は、発足当初から以下の3つの点を軸に活動を行ってきた。この方針は現在も続いている。

① 網羅的な収集

図書・雑誌を中心に開始した収集活動であるが、震災の状況を伝えていくにはこれらだけでは足りないということに気づき、早い段階で網羅的な収集に方針転換した。手書き資料、パンフレット、チラシ、ポスター、張り紙、記者発表、音声・音楽、写真資料、映像資料等も収集対象としている。

② 一般公開

資料は集めて終わりではなく、利用してもらう必要がある。そのため、当時の国立大学としては珍しく、一般利用者にも文庫を公開した。公開当時は一般の閲覧者で文庫内はあふれかえったという。国立大学で初めて図書館を一般利用者に開放したのは神戸大学の震災文庫である、という説もある。

③ インターネットの利用

収集した資料についての問い合わせも多かった。当時普及し始めたインターネットを利用して広報することを決定し、ウェブサイト構築、資料リストの公開(月2回更新)を始めた。さらに、資料そのものを電子化することになるが、こちらについては後述する。

神戸大学附属図書館震災文庫のデジタルギャラリー

守本 瞬

1. 「震災文庫」の概要

神戸大学附属図書館に設置された「震災文庫」は、1995(平成7)年1月17日に起こった兵庫県南部地震による阪神・淡路大震災を機に、被災地にある神戸大学の責務として、

2. 「震災文庫」デジタルギャラリー

震災文庫の資料は保存を優先しており、貸出を行わないため、内容を確認するためには

文庫まで足を運ぶ必要がある。また、手書き資料などは原資料にタイトルにあたる部分がないものも多く、メタデータだけでは資料の内容が把握しづらい。現物を見たら想定と異なっていて使えなかった、という事例も散見された。そのこともあって、利用者が内容を確認できる方策として、資料の電子化公開を検討することになった。

電子化にあたっては著作権の許諾が必要となることから、図書・雑誌を除いた受入済みの資料について、著作権者に対して許諾を得る処理を1998年に開始した。許諾を得られた資料は担当係で電子化し、公開した。

許諾処理にあたっては、著作者別に「所蔵資料のリスト」、「電子化許諾の有無」、「二次利用に際しての問い合わせ要不要」の回答欄をつけた表を作成し、郵送で照会した。

現在でも、新たに受け入れる資料について、電子化公開ができそうなものについては、同様の問い合わせをメールや問い合わせフォームなどから行っている。

震災資料については、地図から検索できないかとの要望もあった。そこで、震災文庫のメタデータに位置情報を入れる項目を作成し、この情報を使ってマップからの検索を可能にした。位置情報については自動登録が難

しいため、動画・画像のデータから一件ずつ手入力で付与しているところである。

3. 「震災文庫」の課題

デジタル資料に限らず、震災文庫の資料については、“現代”の資料であること、公開を目的として作成されていない資料があること、などにより、整理・公開にあたって以下の課題がある。

① 著作権と肖像権

震災資料の電子化公開にあたっては著作権の処理が必須である。著作者に直接照会していることは前述したが、確認作業等は受入時に同時に解決しておくことを念頭においている。

映像・画像資料は、肖像権についても配慮する必要がある。サンテレビジョンの取材映像を資料として受け入れる際には、肖像権ガイドライン^{★2}を基に、教員・サンテレビ担当者とともに映像を一つ一つチェックし、公開可能と判断したもののみ一般公開している。

② タイトルをどうするか。

メタデータのタイトルをどう付与するか、も課題である。固有のタイトルがある場合や、作成者がタイトルを付けていた場合はそれで

神戸大学附属図書館デジタルアーカイブ


震災文庫
 Great Hanshin-Awaji
 Earthquake Disaster Materials Collection

 カテゴリー
  ランキング
  地図検索画面へ


震災文庫デジタルギャラリー

震災文庫デジタルギャラリー

- + 写真 [7930]
- + 動画 [536]
- + 音声 [52]
- + 図書 [545]
- 新聞・広報誌紙 [349]
- パンフレット [181]
- 一枚もの [3239]

写真 (7930)


大木本美通 (5880)

ここに公開する約22,000枚の写真は、放送カメラマンの大木本美通氏がお仕事のかたわら個人的に撮影した震災直後から2002年1月までの、大木本さんのお仕事場に近しい三宮・元町周辺のほか、神戸市内の様々な地で、この膨大な資料が蓄積されました。

今回、大木本さんの記憶・記録と震災文庫による調査を総合して、できる限り撮影場所の特定・キャプションな記録写真をインターネットを通じて広く公開します。

撮影者：大木本美通さんのメッセージ

6,400名余の犠牲者を出した阪神・淡路大震災から7年と5ヶ月が経ちました。倒壊した建物や道路、壊れた火災警報の商店街や住宅地…。震災後、神戸の被災地を歩き始めて感じたこと、それは人々の不安感、絶えてしまった喪失感であったように思います。

しかし反面、“一日も早く元の生活を取り戻したい”“負けてたまるか”という被災者の強い意志の表れは、救援の手やボランティアの活動、地域住民同志の支え合い、行政側の復興開業の後押しもあって、厳しいものの歩みを感じ、7年5ヶ月に思いをします。

震災文庫デジタルギャラリーのトップページ



マップからの検索

よい。しかし、写真や動画、手書きメモなど、固有のタイトルが付けられていない資料は、どうすればよいか。利用者に探されやすくする(=利用してもらう)にはどのようなタイトルを入力しておくとういかが課題である。特に動画は、わかりやすいタイトルをつけるのが難しく感じている。

③ 英訳(外国語訳)をどうするか

より広く利用してもらうために、タイトルだけでも英訳できないかを検討中である。写真や動画は言葉が分からなくても利用してもらえるのではないかと考えている。

翻訳については、誰が訳すのか、資料タイトルをそのまま訳すだけでよいのか、という点が課題になっている。この点は「タイトルをどうするか」とも通じるところである。

また、現代の資料であることから、翻訳権についても考慮する必要がある。

④ 資料収集をどうするか

現在も資料を集めているが、網羅的に収集する困難さを感じている。出版情報だけで把握できないチラシやパンフレットなどは、職員が日ごろから注意して見つけることに頼っている部分がある。

過去のやり取りでつながりのある団体から

は定期的に会報等が送られてきているので、そういったつながりは現代資料を収集する際には重要ではないかと考えている。

震災文庫関連年表

1995.01.17	阪神・淡路大震災発生
1995.05	資料収集を開始
1995.06	『『阪神・淡路大震災に関する文献・資料』の収集及び提供について』を策定
1995.07.06	「収書速報」をインターネット上に公開開始
1995.10.30	震災文庫を公開、「震災文庫ホームページ」を開設
1998.08	チラシ等の電子化のため著作権処理を開始
1999.07	神戸大学附属図書館で電子図書館システムを運用開始 震災文庫の電子化資料を公開
2013.03	「国立国会図書館東日本大震災アーカイブ」(愛称: ひなぎく)と連携
2021.01	サンテレビジョンの映像資料の公開開始

【注】

1: 一つのメタデータは一つの物理媒体に対応している。一冊のファイルホルダーに新聞

記事がまとめて収納されている場合は、メタデータ上は一つのデータとなっている。そのため、実際の“資料数”はもっと多い。

2. データアーカイブ学会, “肖像権ガイドライン”,

<https://hoseido.digitalarchivejapan.org/shozoken/>、(参照 2024.4.3)

【参考文献】

1. 稲葉洋子「阪神・淡路大震災と図書館活動：神戸大学「震災文庫」の挑戦」、人と情報を結ぶWEプロデュース、2005.3

2. 中山貴弘『神戸大学附属図書館 震災文庫とデジタルアーカイブズ：その特色と今後の課題』、「専門図書館」232、74、2008：

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/90000687>、
(参照 2024.4.3)

(もりもと・しゅん／神戸大学附属図書館)
shinsai@lib.kobe-u.ac.jp